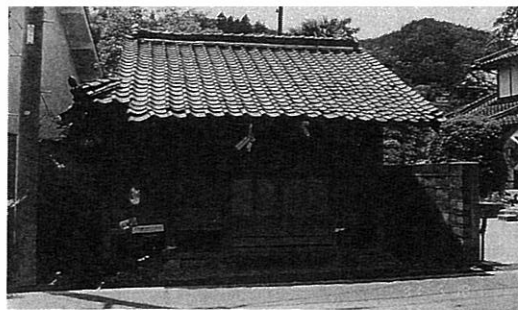
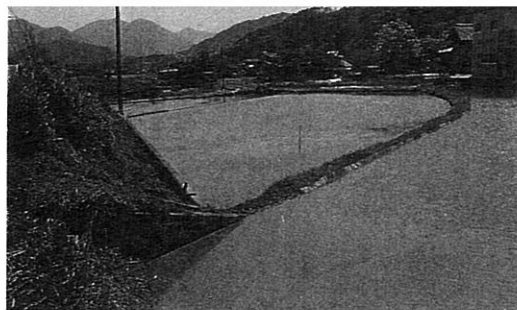
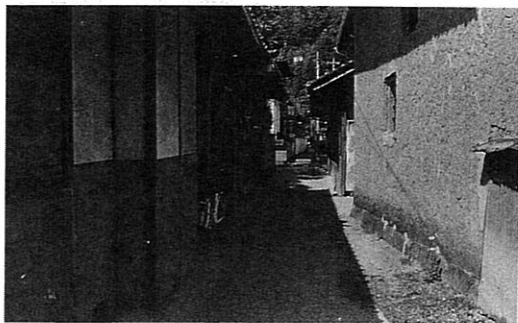




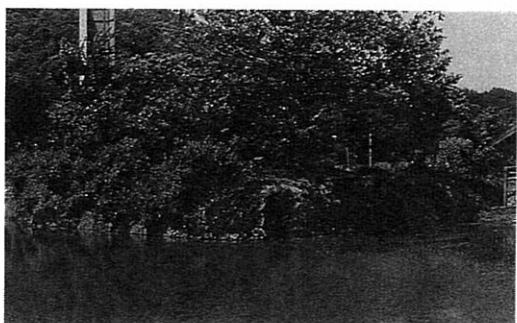
井原の胡神社



大寺から県道37号線へ続く道(県道から)



井原市内の辻道



平塚

つてある。これが旧往還道で、県道を越えたと前面に田が広がるが、さらにその延長上に水路に沿って幅約九〇センチメートルほどのコンクリート製の畔道として続いている。

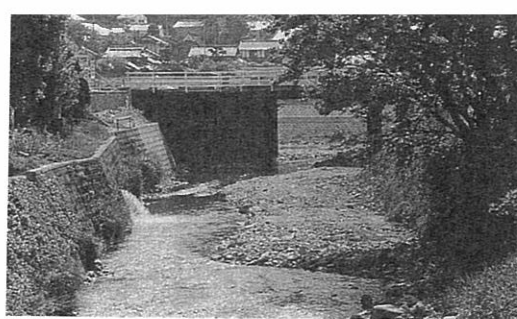
田の中の道を進むと、左手に「平塚」と呼ばれる屋敷跡がこんもりと木を茂らせている。水田の中に位置し、一段高い位置に石垣を組んでいる。さらに圃場整備された水田の中を約一キロメートル直進する道は幅二・三メートルある。幅は広くなっているが、このコンクリート道が旧往還道である。この道が県道三七号線を横切る前に「相撲取りの墓」がある。旧往還道に面して立てられた石碑で、表に「品川六兵衛塚 文政十三年寅八月二十六日 大五良建」とある。

この石碑から県道を横切る間の旧往還道の上には現在家が建てられ、通ることは出来ない。県道を越えたと井原下市に入る。旧市場町での旧往還道は町並みに沿って直角に曲がるところが多い。往来の人々を市の前に通すため作画的につけられたというが、下市の場合も同様で現在も町並みに従って直角に曲がり県道に出る。

井原市に入ると左手に胡神社がある。「国郡志御用ニ付下調書出帳」の「上市、下市に胡堂二社」とある内の一つで、「祭日三月廿日、十月廿日、晚市より儀式仕候」とある。この胡社は井原市の里程の中心となっており、同書には「里程当村市胡堂より長田村大内迄壹里貳拾丁(略)、市川村順教寺迄貳拾八丁(略) 吉田町江三里(略) 三次町江八里(略) 広島江八里半」とある。

市中を町並みに沿って進むと、左手に浄土真宗浄満寺がある。旧往還道はこの寺の手前を左折する。現蜂須賀外科と醬油店の間の辻で、左右を蔵などに挟まれた古い面影を残した小路となっている。

小路を抜けた所のブロック塀の間に高さ一六〇センチメートルの石の墓が旧往還道に面して建っている。表面には「頭取都川丈兵衛」とあり、右に「安政三年」、左に「九月十日」と彫っている。江戸時代、藩へ納め



栄堂川



戸石の踏切



都川丈兵衛の墓



相撲取り・品川六兵衛塚

る年貢米は川船で積み出していた。船着場に米倉があり、その管理を任
されていた渡邊氏に、船積み方として力士が雇われ住み込んでいた。都
川丈兵衛はその一人である。

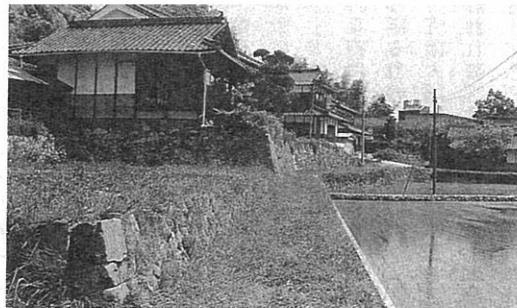
墓の前を直進すると栄堂川に出る。現在は下流に橋が出来ており、か
つての往還道の位置には橋はないが、九尺×一間の土橋が架かっていた
といわれる。米倉と船着場は栄堂川と三篠川の合流点あたりにあったが、
現在は川岸の空き地となっている。栄堂川を渡ると右折し県道三七号線
に出る。ここから旧往還道上に県道が作られており、旧往還道もしばら
くは県道と同じコースをたどる。約七〇メートルほど行くと県道は左
に緩やかにカーブしていくが、旧往還道は三篠川の堤防横を直進してい
く。途中、旧往還道は使用されなくなっており、屋敷地になっている。
竹藪を抜け土手の上を行くと家にあたる。家は通れないが、その延長上
は田の間の道につながっている。田を抜け幅約三メートルの小路に出、
直角に左折し、さらに県道三七号線を越え山の方へ向かって進み、また
直角に右折し山沿いに県道に平行していく。この地は道の形から「横大
道（よこだいどう）」と呼ばれている。

右折した道をさらに進むと戸石の踏み切りに出る。このあたりの旧往
還道は生活道として残っている。踏み切りでは鉄道を直角に横切る道に
変更されているが、本来は鉄道を斜めに渡る道であった。戸石の踏み切
りを越えようと山際を通る幅約一・八メートルの山道となっている。左手
には旧往還道に沿った石垣が残っている。木々の間の小高い山道を下り
ると古くからの集落に出る。屋敷は石垣の上に建ち、一段高いところ
にあり、右手に広がる田地とその石垣の間を直進して行く。このあたりの
道は現在も使用されているが、さらに直進すると老人ホーム三篠園につ
きあたる。旧往還道は三篠園の建設のため途中削られ分からなくなっ
ている。建設前は竹藪の中を行く道であったとのことである。

三篠園を抜けるところに小川があり、旧往還道は小川に沿って進む。



田の畦をぬけ村境へ



石垣と田の間を行く(正面が三篠園)



村境



新宮神社

この横にある神社が新宮神社である。「国郡志御用ニ付下調書出帳」には「一、新宮大明神 祭日九月八日、夜より同九時右御神事、御儀式者八幡宮同様に御座候、右天方村、講上五組より年番にて御供仕候」とある。境内の大イチョウは広島市指定天然記念物に指定されている。新宮社から旧往還道は家が並ぶ中を行く。道幅は改修され約四メートルと広くなっているが屋敷の位置は変わっていない。家は改築されているが、屋敷の位置と旧往還道の関係がよくわかる。改修されて広くなった道を直進すると芸備線につきあたる。旧往還道は鉄道を斜めに右上に上がっていき、鉄道を越えると山際と線路の間を行く。現在には使用されていないためこの道は荒れている。

ここを抜けると田の中の畔道となり、さらに竹藪の中に入る。竹藪の中は幅約一メートルの道が続き向原との境に至る。村境は藪の中の小川である。以後、向原を経て吉田に続く。

(菅 信博)